

科技高 いきもの記

Vol.59 2022.8.31

生物教員 佐藤龍平

学校にも住みついでる?! アオダイショウ

「学校の中庭にヘビがいたんですよ！」1学年担任のF先生とS先生がそう教えてくれた。雨の日の夕方、帰ろうとしたらウッドデッキのところで30cmほどのヘビに遭遇したのだそうだ。ぱっちり写真も撮ってくれていた。見せてもらおうと、そこには逃げようとしているアオダイショウ（青大将）の成体が写っていた。

実は学校敷地内でアオダイショウの目撃があったのは、私の知る限りこれで2回目。5年くらい前に経営企画室のHさんが20cmほどの幼蛇を、これまた中庭で見つけて教えてくれた。もしかしてその時のアオダイショウかな？寿命は10年ほどだというのでありえない話ではない。だとしたら、いったい何を食べているのだろうか。そんなにエサが豊富だとは思えないけど…

学校の外まで話を広げてみると、学校周辺では東側の越中島支線の線路沿いの茂みで2020年7月に卒業生のリュウセイが、そして猿江公園では昨年（佐藤確認）、今年（タツキが5/30に成体、7/8に幼体を発見）と生息を確認している。猿江の個体は今生物室で飼育している（だから、ヘビを学校の中庭で見かけたとF先生たちに言われた時は、逃げたのかと思って内心かなりドキッとした）。

アオダイショウは都市部にも多く、我々に最も身近なヘビだが、近年は減少傾向にあるそうだ。東京都では準絶滅危惧（NT）に指定されてしまっている。ヘビを怖がる人も多いが、アオダイショウは無毒だし、よく見ると非常に可愛らしい顔つきをしている（私は昔からヘビが大好きだ）。必要以上に怖がらず、学校周辺で見かけてもそっとしておいてあげてほしい。



1学年のS先生が撮影した学校のアオダイショウ（矢印）。ウッドデッキの隙間に逃げようとするところをギリギリで写した。2022.7.26



学校の東側でリュウセイが見つけたアオダイショウの成体。2020.7.3



猿江公園のアオダイショウ *Elaphe climacophora* 2022.5.30
最大2mほどになる本州最大のヘビ。東京都ランク：準絶滅危惧（NT）。
エサはネズミなどの小動物で、英語ではJapanese rat snakeと呼ばれる。



木に登るアオダイショウ 2021.5.22
猿江公園のハゼノキのかなり高いところで発見！アオダイショウは本州のヘビとしては最も樹上性が強い。木登りが得意なのだ。



木登り上手な理由—クライミングキール—
腹板に側稜と呼ばれる強い隆起（キール）があり、角張った腹をしている。このキールが木や壁の溝に引っ掛けやすく、手足が無いのに器用に登ることができるのだ。



アオダイショウの抜け殻
眼の部分まできれいに脱皮して、口先からしっぽの先まで一つながりの抜け殻になっている。ヘビやトカゲは脱皮を繰り返しながら成長していく。アオダイショウは、2か月に1度くらいのペースで脱皮するようだ。

参考：日高 敏隆(1996)、日本動物大百科5、平凡社
関 慎太郎(2018)、野外観察のための日本産爬虫類図鑑 第2版、緑書房
クリス・マティソン著、千石正一監訳(2000)、ヘビ大図鑑—驚くべきヘビの世界、緑書房